

UBICの知財戦略支援システム「PATENT EXPLORER」が 昭和電工に導入

従来の調査手法と比較して、高い優位性を示すことで、導入を短期間で決定、
人工知能による先進的な知財分析をいち早く取り入れる

米ナスダックと東証マザーズに上場し、人工知能を駆使したビッグデータ解析事業を手がけるUBIC（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本正宏）は、独自開発の人工知能「KIBIT」を用いた知財戦略支援システム「Lit i View PATENT EXPLORER」（リット・アイ・ビュー パテントエクスプローラー、以下、PATENT EXPLORER）が、昭和電工株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 市川 秀夫、以下、昭和電工）に12月より導入されたことを発表しました。

PATENT EXPLORERは、トヨタテクニカルディベロップメントとの共同開発で製品化し、2015年10月29日に提供を開始しました。先行技術調査や無効資料調査などの特許の分析業務を大幅に効率化し、従来の調査方法と比べ、約330倍^{※1}の調査効率の向上を達成しています。見つけたい文書（発明提案書、無効化したい特許資料等）の内容を“教師データ”として人工知能「KIBIT」に学ばせ、“Landscaping（ランドスケイピング）”という独自の機械学習の手法を用いて、少量の教師データをもとに膨大なデータを解析し、短時間でスコアリング（点数付け）による文書の仕分けができることを特徴としています。

今回、PATENT EXPLORERの導入を行った昭和電工は、石油化学、化学品、エレクトロニクス、無機材料、アルミニウム等を手掛ける、日本を代表する化学メーカーです。グローバルでの競争を続けるなか、知財戦略が企業の成長と発展に重要であると考えています。

昭和電工がPATENT EXPLORERの導入を短期間で決定したのは、先進的な知財分析の活用に積極的であること、またトライアルにおいて、従来の調査手法であるキーワード検索や類似検索、概念検索などに比べて、調査効率が向上し、精度や網羅性にも優れた結果が得られたためです。

PATENT EXPLORER提供開始以来、製品の内容や導入に関する多数の問い合わせが寄せられています。2015年11月2日から4日まで出展した「2015 特許・情報フェア&コンファレンス」においても、想定を上回るブース訪問者数と講演に参加を頂きました。その後、トライアルを開始する企業や実施を決定した企業が順調に増えており、12月には他1社での導入が決定したほか、今後も引き続き、企業などの知財部門、研究開発部門等での導入が見込まれます。

※1：開発時における平均データ



【UBIC について】 URL: <http://www.ubic.co.jp/>

株式会社 UBIC は、独自開発の人工知能エンジン「KIBIT」により、ビッグデータなどの情報解析を支援するデータ解析企業です。国際訴訟などに必要な電子データの証拠保全と調査・分析を行う e ディスカバリ（電子証拠開示）や、コンピュータフォレンジック調査を支援する企業として 2003 年に創業。自社開発のデータ解析プラットフォーム「Liti View®（リット・アイ・ビュー）」、アジア言語に対応した「Predictive Coding®（プレディクティブ・コーディング）」技術などを駆使し、企業に訴訟対策支援を提供しています。訴訟対策支援で培った UBIC 独自の人工知能は、専門家の経験や勘などの「暗黙知」を学び、人の思考の解析から、未来の行動の予測を実現、最近では医療やビジネスインテリジェンス、マーケティングなどの領域に人工知能を活用し、事業の拡大を進めています。2003 年 8 月 8 日設立。2007 年 6 月 26 日東証マザーズ上場。2013 年 5 月 16 日 NASDAQ 上場。資本金 1,688,433 千円（2015 年 3 月 31 日現在）。

〈本件に関するお問合せ先〉

株式会社 UBIC 広報担当 池内

TEL: 03-5463-6380 FAX: 03-5463-6345